

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身につける。
自己の将来ビジョンを可能な限り明確にし、その進路実現のための確かな学力と実行力を備えた生徒を育成する。
- 2 自ら考え行動できるように、自主自律の心を養う。
学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、自ら主体的に考え粘り強く行動できる生徒を育成するとともに、相手の痛みが共感できる優れた人権感覚を身に付けさせる。
- 3 国際交流体験を通して、自己発見と他者理解を深める。
海外の研修に積極的に出かけて国際感覚を磨き、見聞を広める。また、外国の諸団体を積極的に受け入れ国際交流を推進することにより、将来、国際人として飛躍できる資質・能力を育成する。
- 4 国内最高レベルの音楽教育を推進する。
国や府の推進事業等を積極的に活用し、音楽科の講師とも一体となって最高レベルの音楽教育を推進することにより、生徒の音楽的才能を開花させる。

2 中期的目標

- 1 に関する中期的目標
 - ①教員の授業力の向上を期すため、校内研究授業や外部公開授業を今後3年間さらに活発化させ、「魅力ある授業」「分かる授業」の確立に向け一丸となって取り組む。
 - ②授業アンケートを年間2回実施し、教科担当者の自己分析は勿論のこと、教科、学年、学校全体で綿密に分析・協議し、効果的な授業改善を図る。平成28年度には授業アンケートの平均値を3.1にする。
 - ③自己の将来を見据えたキャリア教育を1年次より段階的・系統的に推進し、進路目標の明確化を図る。
 - ④放課後、土曜日、長期休業中の補習をさらに充実させ、3年間を見通した計画的・発展的な指導体制を築くとともに、家庭学習を中心とした自主的な学習時間の増大を図り、最大限の進路実現を図る。
☆国公立大学現役合格者40名 関関同立合格者累計200名を目標とする。
 - ⑤積極的に英検にチャレンジさせ、英語運用能力を高めるとともに、進路実現に必要な英語力の向上を図る。平成28年度には英検2級の年間受験者数150、合格率35%を目標とする。
- 2 に関する中期的目標
 - ①遅刻指導を徹底させ、基本的生活習慣の確立を期す。平成28年度には年間遅刻総数2200を割ることを目標とする。
 - ②生徒自治会やPTAと協力して、朝の挨拶運動を推進し、挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
 - ③地域清掃活動及び地域の高齢者施設、病院との交流活動の充実を図る。近隣の小・中学校とも連携して活動を活性化させる。
 - ④新入生へのクラブ紹介やオリエンテーションを充実させるとともに、部活動の定着率を高め、平成28年度には生徒全体の加入率85%超を目標とする。
 - ⑤参加体験型の取組を含む3年間を見通した人権教育の充実を図り、特に障がいがある人たちに対する思いやりと共感の精神を育成する。
 - ⑥スクールカウンセラーや関係機関と連携することも含め、校内の教育相談体制を充実させる。
 - ⑦学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめ事案に適切に対応できるように校内の指導体制を充実させる。
- 3 に関する中期的目標
 - ①国や府他様々な事業を活用して、国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力を向上させ、有意義な国際交流の実現を図る。
 - ②海外修学旅行、海外語学研修、ウィーン音楽研修を継続実施し、国際感覚を磨くとともに、最大限の教育的効果を上げる。
 - ③国際交流基金日中交流センター等と連携し、長期・短期の留学生を積極的に受け入れる。
 - ④大阪観光コンベンション協会や駐大阪韓国文化院等と連携して、海外の学校の訪問を積極的に受け入れ、有意義な国際交流を展開する。
 - ⑤国内に居ながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。
 - ⑥国際交流委員会（教員）の組織的活動を充実させるとともに、各学年の生徒国際交流委員会の定期的開催を定着させ、活動を活発化させる。また、国際交流新聞の定期的発行を軌道に乗せる。
- 4 に関する中期的目標
 - ①国や府の推進事業等を計画的に活用して、日本の伝統文化や外国の音楽文化を学ぶ機会を積極的に設定するとともに、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と回数を充実させる。特別レッスン、特別公開講座については、年間20回の開催とし、企画・内容のさらなる充実を図る。
 - ②音楽科講師との連携を強化し、最高レベルの音楽教育を推進するとともに、進路保障の充実を図る。
音楽科現役生徒の国公立大学への進路決定者を15名以上とする。
 - ③一流の指揮者を招聘して、NHK大阪ホールでの定期演奏会を継続・発展させる。
 - ④生徒の自主運営による学内演奏会やアウトリーチ活動など、発表の場を多く体験することで音楽的能力や企画力の伸長を図る。
 - ⑤小・中学校や地域への広報活動を活発に行い、本校音楽教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
 - ⑥海外の音楽学校と連携し、交流を促進する。また、世界に羽ばたく音楽家の育成を期して、音楽科生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校に行くのが楽しい」(生徒)、「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ86.1%、88.1%で、生徒、保護者ともにH25と比べてそれぞれ4.2ポイント、0.9ポイント増加した。</p> <p>【学習指導等】生徒の回答では、「授業が充実している」に対する肯定的回答が70.9%となり、昨年度比8.9ポイント増加。また、「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」に対する肯定的回答は59.0%で、昨年度比3.8ポイント増加。一方、教員の回答では「授業を大切にしている」の肯定的回答が100%となっており、教員の意識は評価できるが、昨年同様生徒と教員との意識の差が見られ、さらに授業の改善が求められる。</p> <p>【生徒指導等】「先生の指導は納得できる」(生徒)、「適切に生徒指導を実施している」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ66.9%、69.2%で昨年度比それぞれ2.8、3.4ポイント増加している。いずれも過去2年間ポイントが増加しており、これまでの取組が理解・評価されたものと考えられる。また、「自治会活動が活発である」に対して77.3%の生徒が肯定的回答をしている。自主・自律の精神が浸透するよう取り組んでいきたい。</p> <p>【進路指導等】「将来の進路や生き方について考える機会がある」(生徒)、「適切な進路指導を行っている」(保護者)に対する肯定的回答はそれぞれ67.5%、62.1%で昨年度比それぞれ1.8、6.7ポイント増加している。この3年評価が下がっていた進学講習については、肯定的評価が63.8%で、昨年度比1.8ポイント増加した。今後も効果的な指導を探っていきたい。</p>	<p>第1回(平成26年6月23日開催) 内容：H25学校評価・H26学校経営計画、夕陽丘フォーラムについて説明。 協議・意見：・行事について、文化祭・体育祭は生徒たちの力になっているのではないかと、全員参加の行事が多いが、得手不得手があるので全員参加の行事はマイナスに作用するのでは？ ・不得手を克服することが大切なのではないか。 ・2学期制について、テストは現行5回だが、4回でいいのではないか。</p> <p>第2回(平成26年10月8日開催) 内容：H26学校経営計画の進捗状況、授業アンケート(第1回)・学校教育自己診断について説明。 協議・意見：・生徒の学力維持のために、インターネット講座の紹介、能率手帳の活用、スタディーマラソンを実施している。 ・入試制度変更の影響は？入試時期、入試業務に追われ在校生との関わりが希薄になった。 ・中庭にごみ袋が舞っていても知らないふりをする生徒がいる。清掃に関する生徒の意識は？ ・あいさつや掃除は、やらされ感が生徒にあるのではないかと。意味を理解すればできるようになる。</p> <p>第3回(平成27年1月19日開催) 内容：H26及びH27学校経営計画・学校評価(案)、授業アンケート(第2回)・学校教育自己診断について説明。 協議・意見：・遅刻数が減ったとあるが、具体的にどのような取り組みをしたのか。・・・学校へ連絡があっても、単にしんどいなどの理由については指導の対象とし、安易に遅刻できないようにした。 ・数値目標については、これからさらに上げていくのか。・・・もちろん数値を変えない項目もあるが、大学進学の数値については上げてよいと考えている。夕陽の生徒の学力を十分伸ばし切れていないと考えている。 ・夕陽丘は人気も高く、入ってよかった学校として毎年97%前後の評価があることはすばらしいことである。今後どこにスタンダードを置くのかをしっかりと定めて、継続して取り組みを進めてもらいたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
取組 1	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①研究授業や公開授業の推進と若手教員の育成</p> <p>②授業評価アンケートの実施</p> <p>③キャリア教育の推進</p> <p>④進路実現に向けた補講習等の体系化と実施 ・自主的な学習時間の増大</p> <p>⑤英語運用能力及び英語力の向上</p>	<p>①校内研究授業（全教科）を6月・11月の2回実施する。若手教員とベテラン教員との意見交換会を実施する。</p> <p>②非常勤講師を含む全教員対象に7月、12月に実施し、結果を分析・実践・検証して授業改善を図る。</p> <p>③「総合」の時間やLHRを活用して自己の進路を考える。大学や企業等と連携して進路実現に向けた具体的な取組を図る。</p> <p>④土曜講習、放課後講習、朝学習等の補講習を3年間を見据えて体系化し、効果的な指導を展開する。国公立や関関同立進学に向けたセミナーの継続実施（図書館の活用、特設講座による理科実験実習の実施。） ・各教科で効果的な課題を積極的に提供し、自学自習の環境作りを仕掛ける。定期的に学習実態調査を行う。</p> <p>⑤英検にチャレンジし、英語運用能力及び英語力の向上を図る。授業において、様々な工夫をしてプレゼンテーション、スピーチコンテストなどのスキルの向上を図る。 ICTやタブレット型パソコンを活用した授業を英語科、体育科以外に広げていく。</p>	<p>①研究授業を全教科実施できたか。 意見交換会を2回以上実施。</p> <p>②自己診断の授業に対する肯定的回答を70%及び授業アンケート平均値を3.07以上とする。</p> <p>③大学や企業と連携したキャリア教育を4回以上実施。</p> <p>④体系化され教職員の共通理解のもと実施されているか。 ・定期的な学習実態調査の実施。自主学習時間の段階的アップ ・国公立大現役合格30名（H25：22名）、関関同立大現浪合格180名（H25：166名）</p> <p>⑤英検受験者数準2級350名、2級150名 2級、準2級の合格率の目安→受験者のそれぞれ30%、55%以上 タブレット型パソコンを活用した授業が定着したか。</p>	<p>①公開授業の実施（5月、11月）、また、初任者、10年経験者による授業を通じて若手教員とベテラン教員との意見交換会を実施。次年度はさらに意見交換会を活発に進める。（△）</p> <p>②非常勤講師を含む全教員対象に7月、12月に実施し、結果を分析・実践・検証し授業改善を図った。第1回平均3.20（H25は3.00）、第2回平均3.21（H25は3.04）、第2回目は設問9項目中5項目が第1回を上回る。自己診断では、70.9%（H25は62%）が授業に対して肯定的回答。次年度は75%以上をめざす。（◎）</p> <p>③1年：進路体験（職業について考える）（10月） 適性検査の見方（10月）、進路講演（大学教授）（11月） 2年：学問研究（大学教員による模擬授業）（6月） 進路講演（進学アドバイザー）（11月）、大学学部研究（大学関係者）（11月） 3年：学校別説明会（5月） PTA：関関同立の入試説明会（5月） 教育資金説明会（3月） 次年度も同様の取り組みを進める。（○）</p> <p>④補講習の充実（土曜講習、放課後講習、朝学を全学年実施）・1、2年生対象自主勉強教科週間設定（夏休み）、夕陽丘セミナー（1、2年生）を5月から実施。次年度は内容の充実と精選を図っていききたい。 ・国公立大現役合格数20名 ・関関同立大現浪合格数180名（○）</p> <p>⑤特設レッスンを6月に開設（2級、準2級合格をめざす） 英検実績（第1回、第2回合計）2級受験者数70名合格者数10名合格率14.3%、準2級受験者数116名合格者数65名合格率56%。 英語能力判定テストの実施（2年） 今後英語能力判定テストについて定点観測したい。（△）</p>
取組 2	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①遅刻指導の徹底</p> <p>②挨拶運動の推進</p> <p>③清掃活動や地域交流活動の充実</p> <p>④部活動の活性化</p> <p>⑤人権尊重の教育を推進</p> <p>⑥教育相談体制の充実</p> <p>⑦いじめ対応の体制の充実</p>	<p>①定期的に遅刻防止指導週間を設定し、指導の徹底を図る。集会等いろいろな機会を通じて説諭する。授業遅刻及び遅刻常習者に対しては、関係学年・部署と連携するなど効果的な指導を図る。</p> <p>②朝の挨拶運動は定着しており、継続実施する。一般来校者に対する挨拶の励行をまずクラブ部員から推進していく。</p> <p>③生徒と教職員が協力して校内の清掃活動を活発に行う。近隣の清掃活動も実施する。音楽科や吹奏楽部を中心に高齢者施設や病院等との交流活動を促進する。 ・校内美化を啓発・推進。</p> <p>④各部の活躍を校外に積極的に発信（ポスター作成・HP更新等）</p> <p>⑤参加体験型を含む効果的な人権教育を継続して実施する。</p> <p>⑥教育相談委員会を定期的に開催するとともに、気軽に相談できる校内の雰囲気高める。</p> <p>⑦いじめ対策委員会を定期的及び必要に応じて開催し、校内の指導体制を確立・充実させる。いじめ等のアンケートを年2回実施する。</p>	<p>①年間遅刻総数2400を割る。（H25：2597超）</p> <p>②挨拶についての調査（自己診断）で肯定的回答を90%以上とする。</p> <p>③合同清掃活動を含む年間3回以上の実施 ・年間5回以上の交流活動の実施 ・美化運動が効果をあげ、校内が美しくなったか。</p> <p>④全学年の部活動加入率80%以上（H25：75%）</p> <p>⑤人権教育実施後アンケートで肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>⑥相談体制に対する生徒の肯定的評価を70%以上とする。（H25：47.6%）</p> <p>⑦いじめについて、組織として適切に対応できているか。</p>	<p>①遅刻指導の徹底 遅刻総数2058となり、目標を達成できた。次年度も継続して指導に取り組みたい。（◎）</p> <p>②朝のあいさつ運動（生徒・教職員合わせて常時8名体制で実施。）・あいさつについて、生徒の75%（H25:72.4%）が肯定的回答（自己診断）。次年度も継続実施する。（△）</p> <p>③地域清掃活動の実施、「ゆめまちロードOSAKA桃谷」に参加（11月）、ボランティア清掃活動（年間計7回実施）。 本校教育施設を幼稚園（4月）、地域（9月）が活用 音楽科による警察病院コンサート実施（12月） フリーコンサート（3月予定）、次年度も積極的に地域の人たちと交流を図る。（○）</p> <p>④部活動参加の向上 新入生の部活動参加率普通科88.2%全体86.9% 全学年76%（○）</p> <p>⑤アイマスク体験や視覚障がい者（声楽家、大学院生）の講演と演奏など実施。次年度も多様な研修、体験授業を実施することをめざす。（○）</p> <p>⑥教育相談委員会を5回開催。 教育相談に対する生徒の肯定的回答は57.4%であった（学校教育自己診断。）昨年度比10ポイント増加したが、さらに気軽に相談できる校内の雰囲気高める必要があると考えられる。（○）</p> <p>⑦いじめ対策委員会を2回実施、いじめ、セクハラ、体罰に係る生徒対象のアンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」を実施（7月、12月）。特に具体的な事案が出てこなかったが、いじめ等の未然防止に努めるとともに、いじめが起こったときに適切に対応できるように委員会を機能させていく。（○）</p>

府立夕陽丘高等学校

<p>取組 3</p>	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。 ①国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力の向上 ②海外研修の推進 ③留学生の積極的受け入れ ④海外の学校の積極的受け入れ ⑤様々な国際交流の機会の提供 ⑥生徒国際交流委員会の活性化</p>	<p>①国や府他の事業を積極的に活用し、英検チャレンジにより個々の生徒の能力を伸ばすとともに、海外に高い関心を抱かせる。 ②台湾修学旅行に積極的に取組み、画期的な成果を収める。 ③長期留学生（1年間）、短期留学生ともにこれまで以上に積極的に受け入れる。 ④中国、韓国、台湾など近隣アジア諸国の学校のみならず、他地域との交流も積極的に行う。 ⑤国内に居ながらにして国際交流を体験できるような機会を提供する ⑥生徒国際交流委員会を定期的に開催するとともに、国際交流新聞を定期的に発行する。</p>	<p>①おおさかグローバル塾等から複数名海外留学。 ②事後の生徒アンケートの満足度 90%超 ③留学生の成長度と生徒への波及効果 ④交流活動 3 回以上 ⑤ 2 回以上の機会の提供 ⑥年間 3 号以上発行</p>	<p>①アドバンスクラスに参加（前期 3 名、後期 5 名）。おおさかグローバル塾より英国留学（1 名）。KAKEHASI プロジェクト（外務省）によりアメリカへ生徒 12 名派遣（3 月）。次年度も新たな機会を探っていきたい。（○） ②台湾修学旅行実施（10 月）。肯定的評価は 82%であった。特に桃園高級中学校との学校交流については、80%を超え、満足度の高いものとなった。次年度以降も海外修学旅行は継続実施。（○） ③長期（1 年間）留学生の受入れ ・H25. 9～H26. 7（中国、ベルギー、ドイツ、カナダ） ・H26. 4～H27. 1（ニュージーランド、モンゴル） ・H26. 9～H27. 7（中国、カナダ、オーストリア） いずれの留学生も体育祭や合唱コンクールなどの行事や部活動に参加することにより、それぞれの日本語力等を伸ばすとともに、本校生に良い影響を及ぼしている。次年度も積極的に留学生を受入れる。（○） ④オーストラリアの中・高校生（30 名以上）と交流（4 月）。 KAKEHASI プロジェクト（外務省）によりアメリカへ生徒 12 名派遣（3 月）。H27 年度も積極的に交流を進める。（○） ⑤留学生の学習発表会を実施（7 月、1 月）（△） ⑥生徒国際交流委員会を定期的に開催及び国際交流新聞を 3 回発行。（○）</p>
<p>取組 4</p>	<p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。 ①国や府の推進事業等の積極的活用、及び特別レッスン、特別公開講座の充実 ②音楽科講師と連携し、最高レベルの音楽教育を推進 ③定期演奏会の継続・発展 ④生徒の自主運営による音楽的能力や企画力の伸長 ⑤広報活動の活発化 ⑥海外の音楽学校との交流を促進・世界に羽ばたく音楽家の育成</p>	<p>①国、府、民間事業を活用し、講師を継続的に招聘し、一定のテーマに基づいて長期的な視点で指導が行えるよう企画する。（オペラ、伝統芸能（箏）等） ・DEANと連携し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と量を充実させる。 ・取組成果を積極的に発信する。 ②通常の授業のほか、生徒の音楽的才能を開花させるために十分な指導体制を整えるとともに、進路実績のアップを図る。 ③9月21日（日）にNHK大阪ホールにおいて音楽科定期演奏会を開催する。 ④従来の学内演奏会に加えて、地域等でボランティアによる演奏会を企画し、発表する。演奏会の企画・運営について、生徒の活躍する場面を増やしていく。 ⑤「音楽科説明会」「音楽基礎講座」（中学生向）「あなたもピアニスト」（小学生向）等を企画し本校をめざす児童生徒を発掘していく。 ・HP（音楽科）の更新頻度を上げる。 ・地域や音楽団体と連携し、本校生徒と交流演奏会を実施する。 ⑥海外の音楽学校と合同演奏会を開催し、音楽的才能のみならず、英語で堂々と交流できる態度を育てる。</p>	<p>①一つのテーマについて年間を通じて授業を実施 ・特別レッスン・特別公開講座を年間 20 回実施し、内容のさらなる充実を図る。 ・HP掲載等により成果を発信 ②国公立大現役進学 15 名が目標。 ③満席の観客を動員 ④学内演奏会年 3 回 ボランティア演奏会年 3 回以上実施 ⑤創意工夫を懲らした説明会の実施 ・4 回以上の実施 ・HPの定期的更新 ⑥海外の音楽学校との合同演奏会開催</p>	<p>①国立教育政策研究所教育課程研究センターの平成 26 年度研究指定校となる。「音楽 I」における我が国の伝統音楽のよさを味わえる授業についての研究を実践。H27 も国研の指定校として実践予定。 ・DEANと連携し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン（13 回）、特別公開講座（6 回）を実施。（○） ②国公立大現役進学 14 名（○） ③9月21日（日）、NHK大阪ホールにおいて音楽科定期演奏会を開催。会場が満員となった。 ・音楽科 20 周年記念演奏会を開催（7 月、いづみホール） 今後内外の期待に応えるような演奏会を開催したい。（○） ④学内演奏会ピッコロコンチエルティスタ（年 3 回）開催。 地域等でボランティアによる演奏会 「警察病院コンサート」実施（12 月） 「ランチタイムコンサート」実施（12 月） 「きたやま苑（老人介護施設）音楽会」は中止 次年度以降も積極的に演奏会等に参加及び生徒の活躍する機会をつくる。（○） ⑤「音楽科説明会」（8 月）、「あなたもピアニスト」（小学生向）（9 月、10 月）、「音楽基礎講座」（中学生向）（10 月）、大東楽器「音楽科説明会」（10 月）を実施。次年度以降も積極的に広報活動を展開していく。（○） ⑥プナホウ高校（ハワイ）と交流（11、12 月に 3 回） ウィーン音楽研修旅行の実施（3 月）（○）</p>